



男の子の出世 女の子の出世

当館収蔵の絵双六の中で男の子の「出世」を扱ったものには、豊臣秀吉を主人公としたものが数多くあります。出世頭として秀吉は、江戸から明治にかけて代表的な歴史上の人物でした。

当館には所蔵されていませんが、江戸時代の「出世双六」としては町人の出世を描いたものも多くありました。丁稚から始めて、独立を許されるようになるまでの商家奉公人の出世、医者や儒者のように学問による出世、宗匠などの遊芸による出世などがありました。

江戸時代の女の子の「出世双六」にも才色兼備の賢女や才女への憧れが描かれているものがあり、現実に密着したものが多いようです。それらは上りのところが「万福長寿」「極楽隠居」となっています。また「上り」が大名の奥方の場合もあります。町人の娘が大名の奥方となる糸口は、武家奉公でした。「奥奉公出世双六」はそうした興味に答えて作られたものだったのでしょうか。

飛び双六の形式では、最下段から次第に上位に上っていく構造になっています。良い目が出れば、生まれに関わらず大名の奥方への道も開けますが、悪い目が出れば社会の最下層に転落することもあります。まさに江戸時代版人生ゲームといってよいでしょう。

(黒石 陽子)



2. 「日吉丸出世の鑑」



5. 「武芸高名出世双六」



9. 「婦人一代出世双六」



10. 「奥奉公出世双六」

江戸
明治
上りの
出世
双六
夢